

善 古
本 典
展 籍

ご挨拶

大阪古典会は今年で百二十四年目を迎えます。私が古典会の会長になったのは二〇一一年の三月十一日、奇しくもあの東日本大震災の起こった日で、古典会の通常市会が始まって一時間くらい経った時に会場がゆらりと揺れました。地震だとは感じましたがそのまま市会を続けて夕方六時ころから会長就任の祝賀会に参加して帰宅したのは十一時過ぎだったと記憶しています。翌朝六時半頃に目が覚めてテレビを点けてみて初めてこの地震の大惨事を知ったのですが、これより十六年前に私達は阪神・淡路大震災を経験していましたので何とも言えない悲しみを感じた事を思い出します。私は現在七十六歳で古本屋になって既に半世紀が過ぎましたが最近頓に思うことは、このような幾多の自然災害に耐えて我が日本民族が築いてきたあらゆる文化遺産、その中でも特に私が専門とします書物文化と言いますか、木版文化と言いますか、文字文化、絵画文化も含めて我が国の先人達が生み出し、築き上げたあらゆる紙の文化の優秀性をやっと思識出来るような歳になったのかと思うことです。父堅一郎が今の私の年齢だった頃に話してくれましたが、その父熊太郎が戦後古本屋になったばかりの堅一郎に「お前の時代にはもう和本はなく

なるやろな。」と言っていたそうです。「僕の時代には和本がもうなくなると親父が言っていたけど、おかしいな、まだまだ和本や浮世絵なんかが沢山出てくるがな。」と父は本当に不思議そうに語っていました。父の十七回忌の法要を昨年行いましたが、この令和の時代になっても我々古本屋の扱うことが出来る奈良時代や平安時代の古写経や歌切から鎌倉室町時代の書物や古文書、それから江戸時代に沢山摺られた木版の小説や物語、今外国にも人気の浮世絵版画等々江戸時代以前の商品がいまだに我々の市場に出てくるのですから我々古本屋や古美術に携わる業者にとっては本当に有難いことで制作に携わった昔の人々に感謝するほかありません。

私は讃岐（香川県）の西の端っこの本山寺（四国八十八ヶ所の七十番札所）がある片田舎で生を受けてまして、本山小学校・豊中中学校・観音寺第一高等学校（先輩に大平正芳内閣総理大臣 同級生に、芦原すなお、直木賞作家『青春デンデケデケデケ』小松秀樹、東京大学医学部卒『医療崩壊』医療事故への独自の見解を発表）と進んで、世界を飛び跳ねるカツコイイ商社マンを目指して大阪外国語大学の中国語学科に入学しました。ふとしたことからヨット部に入ったことで私の

人生設計は大きく変化し、五年後には中尾松泉堂という船場で恐らく一番小さな(十二坪)木造二階建ての店に丁稚奉公することになりました。二十三歳になったばかりの初夏の頃でしたがこの店の二階に住み込んで働くことになり夏でしたので窓を開けて寝ていまずと近所からエレキギターやドラムの音が喧しく聞こえて来て寝てられません。「うるさい！」と叫んでみても彼らに聞こえる訳ありませんが、そういえば時々うちの店の前を汚いジーパンを穿いたロン毛の兄ちゃんを見かけましたが一度も話しかけたことはありませんでした。この若者たちがあの谷村新司や堀内孝雄がいた大阪時代のアリスだと分かったのは何年も後の事でしたが、一時ビートルズに凝ってお金も無いのに「ラバーソウル」他七枚のLPレコードを集めたこともあった私としては当時アリスの名も知らなかったしどうでも良かったのですがちょっと惜しい事でした。一年後昭和四十九年に松泉堂二代目中尾堅一郎の長女と結婚して正式に古本屋としてやっていくことになりました。

昭和五十年に阪急古書のまちが出来ましたので私は古書のまち店の店長として働くことになりましたが、月日の経つのは早いもので去年の十二月一日に五十周年を迎え、古書のまちの会長として記念目録を発行させて頂きました。昭和五十年代から六十年代にかけて古本市場の中心は国文学の書物でした。「西鶴の本が五〇〇万、八〇〇万もするのに明版の絵入り本が二〇万、三〇万か、せいぜい五〇万や。僕は絵入り明版は西鶴本と同じくらいか、むしろもっと高くてもええんじゃないかと思うけどな。西鶴もええけど、僕は唐本が好きやか

ら。」と父堅一郎が西鶴本全盛の時代に私に呟いたことがありました。昭和バブルが弾け令和時代になると国文学関係の書物は段々売れなくなつて、平成二十一年父は八十四歳で旅立ちましたがその頃から中国関係の書画骨董品が高騰し古物市場を席巻しました。思えば古代日本が国の組織や政治・文化・宗教に至るまでお手本にしたのは中国であつて、中国は日本国のお師匠さんだったので。父は中国バブルを知らずに亡くなりましたが父の集めた唐本や拓本、中国版画などはまだ少しも売らずに残してあります。世界を飛び回る商社マンを夢見た少年は、古本屋のおっちゃんになつてしまいました。が、まあ何と言いますか、歳を取りますとまた結構楽しめる商売でもあるようです。

東京古典会のまね事をして、ちょっとでもいいから東京に近づきたいという気持ちで十数年、今年は全商品をカラー印刷にし、サイズも大きくして顧客の皆様にお届けします。全国の業者の皆さんからのお力添えで出品点数も大きく増えましたことに感謝し、何よりも古本ファン、浮世絵ファン、中国ファン等々の皆様のご来場を切にお願い申し上げる次第です。

令和八年五月吉日

大阪古典会会長 中尾隆夫

大阪古典会創立百二十四周年記念

古典籍展観入札会

展 観

五月二十九日（金）午後一時より午後六時まで

五月三十日（土）午前十時より午後五時まで

入 札

五月三十一日（日）午前十時廻し開始（開場 午前九時）

（全古書連加盟業者のみで行います）

会 場

大阪古書会館

大阪府中央区粉川町四一

TEL（〇六）六七六七―八三八〇

取引規定

一点 五万円以上

但し 額・幅物・屏風は一〇万円以上

○入札は全古書連加盟業者が行います。ご希望の品がございましたら、ご懇意の書店へご注文下さい。

なお落札の際は、落札の価格に加え若干の手数料を頂戴いたします。

○会場内での写真撮影および簡単なメモ以外の筆写は固くお断りいたします。

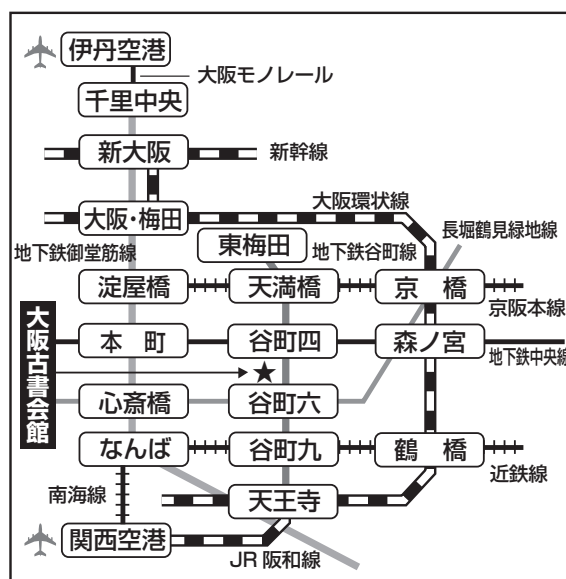
なお、鉛筆以外の筆記具のご使用はご遠慮下さい。

ホームページにて、目録をご覧いただけます。

<https://kotenkai.com>



[会場の御案内]



大阪古書会館

大阪市中央区粉川町 4-1 TEL : 06-6767-8380

○交通のご案内

- 地下鉄谷町線 / 中央線 谷町 4 丁目駅⑧番出口
- 地下鉄谷町線 / 長堀鶴見緑地線 谷町 6 丁目駅⑤⑥②番出口
- 地下鉄長堀鶴見緑地線 松屋町駅⑤番出口
- 阪神高速道路 法円坂出入口
- タクシー 内久宝寺町三丁目交差点南入

目次

写本

古写経・古写本・古筆切	1
国文・古典芸能	3
国史・地誌	4
絵本・諸芸・趣味	6
医書・本草・易暦・洋学	8
仏教・宗教	8
漢籍	9

版本

古版経・古版本・古活字本	9
国文・古典芸能	10
国史・地誌	14
絵本・諸芸・趣味	15
医書・本草・易暦・洋学	17

仏教・宗教	18
漢籍	19
古文書・古記録	20
書画・筆蹟	22
中国・朝鮮 書画・筆蹟	25
中国版画	26
中国経卷	26
唐本・朝鮮本	27
書道・法帖・印譜	30
浮世絵・版画・摺物	34
春画・艶本	45
古地図	47
近代資料・文献	49
複製・美術書・洋装本・その他	52
追加	54